



114
A 2108



超エヘカラサル議

知藩事ノ職ヲ解キシ華族ノ家禄既定ノ制限ヲ

朝廷既定ノ制限ヲ超ヘ更ニ新規ヲ立テ免職知藩

事ノ家禄ヲ増加スルノ議アリ是政府天下ノ公理ニ悖リ

億兆ノ公議ニ乖キ國家ノ賦稅ヲ以テ一人ニ私スルナリ

何者法令ハ政府其國ヲ治ムルノ體ニシテ賦稅其

民ヲ保護スルノ用ナリ固ヨリ國君政府ノ得テ私スヘ

キモノニ非ルナリ苟モ國君法令ヲ私スレバ是國典ニ負ク

民部

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈



政府賦税ヲ私スレバ是國人ニ負ク請フ詳テ論セン
蓋シ君主ハ國人ノ首領ニシテ政府ハ國家ノ機軸ナリ
故ニ政府ノ務タル能ク其國體ヲ明ニシ其民情ヲ審
ニシ倫理ニ從テコレカ法令ヲ立而シテ其法令整肅紀
律簡明其民ヲ率育ニ其國ヲ捍護シ強大富盛
外侮ナカラシムルハ政府億兆ニ荷フ任ニシテ其指令ヲ
奉事シ毫モ國典ニ犯違セサルハ是亦億兆政府ニ荷フ
義ナリ故ニ其コレヲ裁制修理スルニ於テハコレカ賦税備

調ヲ課シテ以テ其費用ニ供スサレ賦税ハ其國ヲ修
治スルニ費スヘキノ用ニシテ決シテ國君政府ノ得テ私スヘカ
ラサルハ實ニ易クハカラサルノ公理ナリ

凡世畧萬國他ノ附庸隸屬ウラサルヨリハ其治體ニ於テハ
各差異アリト云凡ニ立國牧民ノ原由ニ至リテハ皆此理ヲ出ル
ナリ

中世ニ至リ武臣權ヲ弄セシヨリ斯理乖亂ニ或ハ每ニ
賦税ヲ施与シ或ハ私ニ人民ヲ苦役シ遂ニ紀綱紊亂

法制錯雜シテ名分倫理殆ト絶ユヘキニ至リシカ幸ニ
大政維新國運振興ノ今日ヲ得テ紀綱漸ク張リ法
制漸ク正シク嚮ニ微ク見ルヘカラサルノ名分倫理再ニ
照明ナルヲ得タルハ實ニ國家ノ幸福ニシテ偶然ニ非ズリ
去歲季春ノ際各藩主其土地人民奉還ノ建議於
ル固ヨリ倫理ニ基キ天道ニ遵フノ義ナリ故ニ

朝廷大ニ天下ノ牧伯ヲ會シ衆庶ノ公論ヲ尽シ討酬
賡論三月ノ久ヲ經天下公案ノ決ヲ以テコレヲ嘉納シ

給ニ更ニ其藩主ヲシテ各其藩事ニ知ラシメ從前
取轄ノ地租賦税十分ノ一ヲ以テコレヲ各知事ノ家禄ニ
給シ凡公廨ノ費用藩士ノ俸禄ニ至ルマテ其九分ヲ以
テコレヲ分給シ制限ヲ正シ計算ヲ明ニシ有餘ヲ官
庫ニ納メ以テ府縣ノ治體ニ倣ヒ各大政ヲ遵守恪
奉シテ國務ニ從事セシム於是守郡縣ノ政再ニ
興リ天下ノ名分大ニ定ルコト

朝廷億兆ノ公議ニ則トリ聊モ其威カヲ以壓制ス

ルニ非ス真ニ天下ノ公理ニ決スルナレバ繼令

朝廷ノ權ト云凡亦謂ナクシテコレヲ凌易スヘカラザル

モノナリ且共知藩事家祿ノ制ニ於ルモ未ク其勞賞

允當ト云カタシト云凡自ラ因襲ノ故習驟ニ日ノ廓

清ヲ得カクキハ亦己今得ザルノ勢ナリ

是ニ由テ之ヲ觀レバ其免職ノ者ヲシテ其家祿ヲ以テ

一身ノ供資ニ給セシムルニ於テハ

朝廷能ク國家ノ賦税ヲ苟モスヘカラザルノ理ヲ推

シテ更ニ其制ヲ減シテ以テ有用ノ國資ニ供スル歟或ハ

其授与スル人ヲシテ各其能ニ從テ國事ニ勤ラカセシ

メ其素餐ノ責ヲ免レシメバコレ

朝廷ノ博愛ニテ國人ヲ輕忽ニセザルト云ワレシ然ルヲ

其勤ニ於テハ措テコレヲ向ハス却テ既定ノ祿制ヲ

増加シ億兆ノ公議ニ悖リ決シテ凌易スヘカラザルノ

公理ヲ凌易セハ是レ

朝廷其國典ヲ亂シ其賦税ヲ私スルノ義ニシテ天下

億兆夫レ

朝廷ヲ何ト謂ニ然則億兆能ク

朝廷ニ遵奉シテ而シテ

朝廷自ラコレヲ欺妄シ信ヲ天下ニ失スル所以ナリモシ

カクノ如クナラバ何ヲ以テ開化ヲ進メ隆盛ヲ致シヤ何ヲ

以テ率音ノ道ヲ立捍護ノ法ヲ設ニヤコレ其事甚

ク大ナラサルモ其關係究メテ至緊切要ナリ以テ極

言抗論セザルハカラス謹テ其當否ヲ陳述スル如斯